

令和6年度第1回亀山市地方創生会議 議事概要

日時：令和6年10月28日（月）午後2時～午後4時

場所：亀山市役所 本庁舎 3階 大会議室

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事

(1) 第2期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

亀山市の人口動態について（資料1～3）

（資料に基づき事務局より説明）

【議事概要】

会長

自然減ではマイナスの状態になっており、出生率が令和3年から4年にかけて大きく下がっている。今までは三重県の平均値より上であったが、コロナ禍が影響したのではないかと感じる。亀山市はしっかりと取り組んでもらっていると感じる。一方で人口減少はなかなか止まらない。地域間格差もあるように見える。皆さんいかがでしょうか。

委員

数字としては、出生率の低さと10年遡ると大きく動いていると感じる。北東部の人口が増えている現状であるが、加太地区、野登地区が少ないと数字にも出ている。北勢地域の近隣都市と比べて、四日市市や鈴鹿市等と比べて亀山市はどのような状況にあるのかが気になる。

会長

野登、加太、坂下、白川地区の人口が減っているが、これは市外に出て行ってしまっているのか、市内で世帯分離をして留まっているのか等、データはないと思うが実態としてはどうなっているのか。

事務局

市内の人口減少が大きい地域については、世帯数も併せて減っているため、地域自体が小さくなっている印象をもっている。その他、神辺地区、関地区については、人口減少は進んでいるが世帯数が増加しておりますので、単身世帯の流入が増えていると感じている。今後も分析が必要であると感じる。

人口減少については、三重県内では中勢、南勢は人口減少が進んでおり、北勢は比較的保っている状況であります。亀山市の状況については、転入元、転出先について

整理をしましたところ、一番多いのは鈴鹿市からの転入が多い。一方で転出先についても鈴鹿市が一番多く、差し引きをすると40～50人程が転入超過となっている。津市、四日市市についても転入超過の状況となっており、隣接市については、亀山市への流入が一定程度みられる状況となっています。

亀山市の人口の状況は、外国人の方が社会増となっており、日本人の方は減っている。鈴鹿市においても人口は減っており、転出超過となっている。

会長

子どもの数はどのような状況なのか。

委員

ここ4年から5年、子どもの数は大幅に減っている。

会長

それは、どのような課題があるのか。

委員

皆さん、結婚されると亀山市外に出ていき、土地が安いので、子どもができると亀山市に帰ってくるというパターンが多い。子どもたちの保育のサービスをみると、亀山市は入ってくる人にサービスを行っているが、学校、保育園といった子どもたちが学ぶことに対する助成も必要ではないかと思う。

会長

亀山市の保育、教育についてはいかがでしょうか。今回の国政選挙でも言われておりましたが、学費の無償化、給食費の無償化等もありました。今はサービス合戦でどこもいろんな手当を乱発している状況ですが、結果そこに人が流れている。亀山市は、そうしたことに先進的な感じはしていたが現状はどうか。

委員

子どもたちや親御さんに対するものはある。子どもたちの学びの場に対する取り組みが薄いと感じる。

会長

資料にありましたが、「将来の夢や目標をもっている子どもたち」「亀山市を住みやすいと感じる市民」の割合が下がっている。亀山市としての魅力がうまく伝わっていないのではないかと感じる。実際、亀山市に住んでいてどうですか。

委員

私は車があるので、30分圏内には、ある程度なんでもあり、それほど不便は感じないが、車がない方には不便だと感じる。

会長

高齢者の移動手段はどうなっていますか。

事務局

コミュニティバスを運行しておりますのと、地域に路線バスも運行しております。他に免許をお持ちではない方や障がいのある方などに対して、乗合タクシーと言いまして、タクシーを呼んでいただいて、タクシーで乗り合っていていただいていた交通体系をとっています。

委員

電車は不便だと感じる。社員は全員が車で通勤している。車がないと生活しづらいと思う。

委員

鈴鹿市にいた時は車を使わなかったが、亀山市に来て車がないと不便と感じた。

会長

亀山市も免許のない方々に対する交通手段を考えていかないといけない。将来的には自動運転などが出てくるが、それまでの過渡期、繋ぎのものとして、先程の乗合タクシーのようなものが必要ではないか。

委員

乗合タクシーについても何人か集まって前日に予約も必要であり、そこまで行けない高齢者の方には不便だと感じる。

会長

今後ライドシェアみたいなものが出てくれば変わってくると思うが、現在は自家用車で送迎すると白タク行為になってしまうので出来ないわけです。今後解禁されれば、地域の方が誰かを乗せていって、お金をいただくといった仕組みができるかもしれない。そうなってくると、交通空白地がなくなっていくのではないかと。

PRの部分はどうか。

委員

数字を見ると亀山市はすごくPRをされていると感じた。移住という意味合いでは、そうした番組もありますので、ケーブルテレビ等も使って広報されると、よりPR度合いも高まり、外に出た亀山市民も戻ってこようかなと感じるのではないかと

会長

少し前にテレビ番組でバナナマンの日村氏が伊賀市の古民家等をめぐる旅をやっていた。そうしたものを利用すると堅苦しくなく、観光PRとして良いのではないかと感じる。

事務局

移住に関しては、亀山市から発信しているだけではなく、東京、大阪、名古屋において移住フェアなども実施されておりますので、そういったところに参加させていただいている。首都圏、関西圏にお住まいの方にアドバイザーになってもらい、首都圏の若い方向けにInstagramで発信をしていただいている。他にも関宿の空き家を活用した関係人口創出の取り組みも行っている。

会長

亀山市に行ったという方は結構います。関宿に行って、蠟燭の体験をしたと聞いている。観光地としてPRの余地はあると思うので、うまく移住と絡めてやってほしい。

委員

先日、移住希望者の方を園に案内をされていて、移住希望者の方も悩んでみえましたが、移住に対するサポートが素晴らしく、亀山市に来ようと思っているとおっしゃっていて、とても良いと感じた。

事務局

定住支援員を1名雇用しており、Instagram等の情報発信をしています。他に、福永委員がおっしゃっていただいた移住希望の方を市内で希望の場所に案内を行う取り組みをしている。

会長

働く場所や病院、学校等もコーディネートしてもらえるのか。

事務局

ご希望を伺って、基本的にはご案内しています。

委員

素晴らしい取り組みだと思う。

委員

インスタグラムでの情報発信については、亀山市のインスタグラムでの発信ということでしょうか。

事務局

移住情報のインスタグラムであり、様々な発信をしています。

会長

子育て世代、若い方たちについてはいかがですか。

事務局

関宿の空き家を使ったワークショップでは若い方も積極的に参加していただき、定期的に相談窓口も開設しています。アドバイザーの方や定住支援員についても人的な広がりもありますので、そこから興味をもって来ていただく方もいます。

委員

私のまわりでは、一度亀山市外に出てアパートに住んで、出産、子育て、家を建てるタイミングで亀山市に戻ってくる。出産も鈴鹿市の産婦人科でほとんどしている。

会長

亀山市は、物理的に産婦人科が少ないのか。

事務局

少ない。ほとんどの方が鈴鹿市で出産している状況である。

会長

家を建てる時の補助はありますか。

事務局

移住いただいた方に住宅取得支援、リフォーム支援といったものが多少なりともあります。川崎地区、井田川地区の人口が伸びているというものも、そうした方々が宅地を買われて家を建てられるといったことが要因であると考えます。

会長

それは市外からの方なのか、もともと亀山市にいた方なのかはわかるのか。

事務局

市外からの方もいますが、市内移動の方もいる。不便なところに建てるよりは、鈴鹿市などに近い場所に戸建てを建ててといった傾向である。マンションに住むといった傾向はあまりなく、宅地も安いので戸建てを選ぶ方が多い。

委員

全国から園に来られる方がおり、福岡からみえた方は、真ん中であり、交通の要所で便利であり、土地が安いので選んだと聞いている。魅力があれば、もっと来るのではないかな。

会長

土地が安い、住宅が安いというのは若い方たちには魅力的であり、最近では、東京都心でマンションを買おうと思うと1億円はくだらないということで、とても東京23区には住めないという方が、千葉県や埼玉県に出ていく状況となっている。現象としては一緒であり、近鉄沿線は高いので、津市、四日市市、鈴鹿市から亀山市に流れてくる。その人たちをうまく捕まえるためには、比較的安くて良い住宅を提供できる土地や仕組みがあるのかが大事である。亀山市はこのことに力を入れていたと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

住宅支援事業も力をいれている。土地利用規制としても鈴鹿市では建てられないが、亀山市では規制がないため、一定程度住宅を建てやすいといった状況がある。

会長

PRは「住むなら亀山」でどうか。先程も言ったように、その他のインフラ、車などが整うともっと良いが、もう少し支援が必要だと感じる。住むには良いと感じる。あとは近隣だけではなく、遠方へのPRが必要である。

移住についても本当に田舎に行きたいという方と、一定程度は便利な場所に行きたいという方がいてターゲットが違う。

事務局

加太地区については名阪国道があり、農業等をしながら、一定程度の利便性はあるつつ、田舎暮らしをするといったことも可能である。

会長

地域性を踏まえた移住PRが必要である。さらに、住むことの魅力発信も重要である。あともうひとつ、働くということについて亀山市はどうか。

委員

どこも働き手がない、人材不足であると口を揃えて言っている。産業団地に進出し落ち着いてきたが、今後安定的に雇用していきたいと言っている。移住についても、移住をして職を探すのではなく、仕事があったうえで移住されているので、その中でかなり苦労されている。亀山高校の生徒についても進学が増えており、地元で採用したいと希望はあるが、なかなか難しい。ネームバリューがあっても難しい中で、地元企業ではなお一層難しい。

会長

三重県内の高校の先生と話していたが、三重県の学校の9割近くは三重県内に就職すると聞いている。人気のある企業に流れており、さらに今の若者はモノづくり、製造業にはあまり関心がないと聞いている。

委員

学生たちが製造したい、モノづくりがしたいといったことで就職してきたのではないと感じる。とりあえず就職したといった子が多い。残業がない、定時に帰れる、給料が良いといったところを望んでいる子が多い。そうでなければ、辞める子も多い。転職サイトも多い。福利厚生を重んじる子が多く、離職も多い。

退職代行サービスもあり、弊社でも3件あった。会社としても流出を防ぐ取り組みを行っている。年齢構成でいうと若い世代が少ない。

会長

働くということについても亀山市に住んでもらうにあたり議論を進めていく必要がある。男性と女性の賃金格差、ジェンダーバランスについても改革していく必要がある。

委員

先日、教職員組合の方々とも話す機会があり、学校の空調設備については、体育館が一部の学校にしかなく、夏場の体育行事を教室でするといった状況も聞いている。そうなってくると、学校も空調の整備されている市の学校に行こうということになる。

会長

私も調査した際に、体育館の空調があるところに周辺から集まってくる。あとは、トイレの洋式化、今和式ができない子もいるので、そのあたりも大事になってくる。

委員

学校もほとんど洋式化しているが、あえて和式を残している学校もある。

委員

親御さんで公共の施設でしゃがんでトイレをする練習をさせる方もいる。

会長

話をまとめると、まずは、移住のお話がありました。亀山市に住むにはそれなりにメリットがある。安く良い住宅に住める、近隣市が大きく、車があれば通勤しやすいそれをうまくPRしていく。一方で課題もあり、交通の面で車がないと不便である。他に病院は鈴鹿市に行ってしまう。それはそれで鈴鹿市と一体で成り立っているが、最低限子育てをしていくためのインフラ等も整備する必要がある。

もうひとつは働くといった視点でいいますと、どこも人材不足で人に来てもらいたいといった厳しい状況であり、亀山市の製造を中心とした企業で若い人たちに働いてもらうために、様々な工夫が必要である。行政と懇談する機会などがありますか。

委員

市長と懇談する機会があり伝えている。

委員

亀山市はインターンシップを積極的にしている。そこから、その子たちが残ってもらえるような取り組みが必要である。今年は人材が特に厳しく、亀山市内の子たちが入ってきてもらえないと聞いている。

委員

若い子は、会社の知名度、福利厚生、給料で選んでいる。

委員

情報量が少ないので、名前で選んでしまう。それで入ったは良いが思っていたものと違ったということで転職が当たり前になっており、すぐにやめてしまう。福利厚生合戦になっており、それに勝てる企業が残っていく状況である。

会長

教育の中でインターンシップであったり、キャリア教育の中で地元企業の方に入ってもらい、子どもたちにも地元の会社や地域について勉強してもらう機会があると、給料が若干安いけど、自分の大好きな亀山市の企業だからといった子どもたちもいる

かもしれない。

委員

通勤の時間を考えた時に15分で行けるのか、30分、40分かけて行くのか、深く分かってくると働き手も増えてくるのではないかな。

委員

子育てをしながら働ける就職先を探されるお母さんが一定数いるが、時間内で終わって働けるところとなると、なかなか見つからず、簡単に探せる派遣に行っている。女性でも働きながら子育てができますよというものがあれば良いのではないかな。

会長

亀山市独自で色々な取り組みを行っている企業を認証するような制度があると良いのではないかな。市が認証しているところであれば、安心して働けるということにつながるのではないかな。

ここまでの話をまとめると、大きく3つの話がありました。まずは移住の話がありました。住んでもらうための様々な支援、取り組みを引き続き行ってもらいたいということ。次に就職、若い方たちが就職してもらえようような福利厚生も含めた学校との連携、キャリア教育、若者の定着支援を行う。最後は、女性が働きながら、子育てをできるような環境整備、男女共同参画企業の認証を行うなど、女性の社会進出をサポートする。

(2) 企業版ふるさと納税の効果検証について(資料4)
(資料に基づき事務局より説明)

【議事概要】

会長

寄附した企業については公表されているのか。

事務局

企業名は公表しているが、寄附額については非公表となっている。

会長

素晴らしい取り組みであるので、今後も引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

(3) 第2期亀山市シティプロモーション戦略について(資料5)
(資料に基づき事務局より説明)

【議事概要】

会長

数字を見るかぎり伝えるということに関しては頑張っていると思うが、他市と比べるとどうしても亀山市が少ない。亀山市の課題についてはいかがでしょうか。

委員

SNSや様々な媒体をPRすることが重要であり、続けることが大事である。有名タレントの方を活用していくのは効果的である。亀山市出身にこだわらず、概念を広げて、親が亀山市出身である方など、お金もかかると思うが活用してほしい。

委員

公式LINEは、病院や生活に関わる情報が分かりやすく配置されていて良いと感じる。昨日、市公式LINEに登録したが、登録者数が2,700人弱ということで、まだ少ない。公式LINEの存在を知らない人も多いと思うため、公式LINE自体の周知が課題であると思う。ただ、観光のInstagramに文字がなく、ハッシュタグのみなので分かりにくいため補足の文字を入れるなど改善してほしい。

会長

亀山市として、Instagram等を今後やる予定はあるか。

事務局

LINEを選考しているため、やらない予定である。

委員

若い子はLINEを見ない。DMであるとチャット方式で返事を返さなくて良いなど、LINEはあまり使われていない。

会長

LINEは若い子は見ないため、若い子向けということであれば、他の媒体の検討も必要である。

次に資料にある「つながるの部分」では、行政だけではなくて、市民の皆さんが発信者になるような取り組みも必要であると思う。受け手であるだけでなく、発信する側であることの機運をどのように高めていくかが大事である。若い世代の方が得意であると思う。

あとは、キャッチフレーズ「住めばゆうゆう」、住まれる方には良いが、遊びに来る方には、もう少し違ったキャッチフレーズがあると良いのではないかと。他に何かありますか。

委員

亀山市は他のまちに比べて祭りが少ないと感じる。

事務局

ホームページのビュー数に関わってくるのですが、昨年度イベント閲覧数で一番多かったのが関宿納涼花火大会で一番多く、その次が亀山市であり、その次が亀山市納涼大会、東海道関宿街道まつりや祇園夏まつりと関宿が舞台となっているものが続きます。大きなイベントを四季折々開催しているといった状況となっております。

会長

春、秋にもイベントがあり、年間を通して比較的まんべんなく開催されているということか。

事務局

夏と秋が多くなっていますが、春は桜まつり等も開催されています。

委員

ひな祭りも開催されている。

会長

大変ではあるが、イベントブランクを作らないことが大事である。

委員

以前は、江戸の道シティマラソンがあったが復活する予定はあるのか。

事務局

運営上難しいこともあり、実施が難しい状況である。

副会長

コロナともあいまって一度辞めてしまうと、再開するのは難しい状況である。

会長

スポーツイベントは集客力もあって、健康増進にもつながるため、できるだけ実施

できると良いが、なかなか難しいところもある。亀山市は健康都市連合に加盟しているため、健康やスポーツ等の取り組みで注目を集めるのも良いと考える。

委員

亀山市で働いていて、祭りがすごく多いと感じる。東野公園、西野公園、亀山公園と運動場もあり、良いコンテンツが多いので発信を積極的に行ってほしい。

会長

祭り・文化という一つの軸と、もう一つは、健康・スポーツ・体づくりという軸を一つ作って、両輪でプロモーションしていくことは良いかもしれない。働く・住むという環境としては、良いということである。地元の人が気づいていない良さを魅力として伝えられれば、移住・定住にもつながると考えられる。

今回議論いただきました3つの議事については、まとめさせていただきまして、ご報告させていただきます。

4. その他

事務局

現在、次期総合計画の策定作業を行っており、同時に総合戦略の策定作業も行っている。今後、委員の皆様にもご協力をお願いします。

会長

本日皆様からいただきましたご意見については、事務局でとりまとめを行い、私に一任をいただくということでよろしいでしょうか。

各委員

はい。

会長

長時間に渡ってありがとうございました。

以上